

年齢や性別等、特定の層にターゲットを絞った取組や、鑑賞や活動それ自体を目的にするのではなく、ほかの用事のついでに文化芸術に触れられるような取組も進めます。

③ 人が集う文化芸術活動の場の創出

市内の様々な団体が活動する島田市民総合施設プラザおおりの機能を維持するとともに、公民館等の講座等の活動内容についても充実を図りながら、人が集い、多目的で柔軟に使える活動の場を作り出します。

また、駅前広場、空き店舗、空き家を活用したまちづくりに、文化芸術の視点を取り入れ、より特徴ある空間を創出し、関心を高め、アクセスしやすくすることが考えられます。

新たな取組

これまで文化芸術と関わりのなかった施設や空間に対し、文化芸術活動における活用を図ることで、誰もが身近な場所で気軽に利用できる文化芸術創造の拠点づくりを推進します。

- 既存施設における空きスペース利用の検討を通じ、無駄のない公共施設等の活用を推進することで、効率的に文化芸術活動の場の創出を推進します。
- 市民や地域と連携し、まちなかの空きスペース利用を検討することで、多くの市民にとって文化芸術活動が身近に感じられるような、人々が集う場の形成に向けた取組を進めます。
- 性別、年齢や立場等の差異に関わらず、すべての市民が文化芸術に親しめるよう、社会福祉分野との連携を深め、誰もが文化芸術に気軽に親しめる環境づくりを推進します。
- 文化芸術活動の拠点となる島田市民総合施設プラザおおりについては、市役所新庁舎建設により既存の行政機能が集約され活用可能なスペースが生じることに伴い、文化芸術の活動拠点としての機能に加え、市民協働、市民の交流、まちのにぎわいにつながる機能を有する場としての活用方法の検討を進めます。

事業の例を次ページに示します。その他の事業は巻末にとりまとめています。

「着物 de 蓬萊橋」 「浴衣 de 川越街道」

= **文化芸術** × **観光**
× **まちづくり**

＜施 策＞ ②誰もが多様な文化芸術を楽しむ環境の整備

＜取 組 主 体＞ しまだきものさんぽの会

＜事業の概要＞

「着物の似合う街・島田」「着物で歩きたい街・島田」をテーマに市内の名所を着物で散策するイベント。着物を着て蓬萊橋を往復する「着物 de 蓬萊橋」や、浴衣を着て川越し街道を散策「浴衣 de 川越街道」等、季節や会場によって異なる風情を醸し出します。



資料：着物 de 蓬萊橋チラシ

これらの事業は、誰もが気軽に文化芸術に親しむ機会を作り出し、景観的価値を再認識するとともに、その魅力を市内外に発信します。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	着物や浴衣のレンタルや着付けをしてもらうこともでき、観光客が体験できるイベントとして発信	観光客の誘客
まちづくり	地域資源を活用したイベントの開催	地域への愛着の形成
	お茶の接待やコンサートの同時開催 博物館無料開放日に合わせてイベントの開催	にぎわいの創出 多様な団体との連携の強化

＜その他関連する施策の柱＞

3 異文化・多世代交流の促進

散策を通じて、大人も子どもも楽しみながら地域を知ることができます。着物や浴衣を着こなした多くの人が伝統的な町並み等に集い、交流が生まれる機会となります。

4 人をつなぐための情報の整理と発信の強化

関連イベントとして「きものさんぽ写真展」が実施され、地域資源が日常とは異なる姿で発信されています。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

地域資源のもつ時代背景に、参加者の服装を結び付けることで、互いの魅力を最大限に引き出しています。

7 郷土への愛着や誇りの形成

歴史的な雰囲気に合わせて着物や浴衣で歴史的背景をイメージしながら周辺を散策することで、地域資源に親しみを感じ、郷土への愛着が育まれることが期待されます。

8 領域を超えた柔軟な連携

主催者や観光協会、行政が連携をとり、様々なイベントとコラボレーションさせて、交流を促進しています。

「おやじの井戸端講座」

=

文化芸術

×

まちづくり

×

教育

◆継続事業

＜施策＞ ③人が集う文化芸術活動の場の創出

＜担当課＞ 社会教育課

＜事業の概要＞

金谷公民館講座の1つで、地域の資源を巡るハイキングや地域の歴史学習、スポーツや料理等を学びます。

気軽に参加ができるよう、対象者を50歳以上の男性に限定した取組で、自分自身の視野を広げるとともに、仲間との親睦を深めます。

公民館を活用した講座の内容を充実させるとともに、人が集い、多目的で柔軟に使える活動の場を作り出します。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
まちづくり	性別、年齢で対象者を限定することで、気軽に参加できる環境を作り出し、仲間づくり、交流の場を創出	参加者同士の交流の促進 社会参加の促進
	みんくる納涼夏まつりの設営等へのボランティア参加	地域コミュニティの強化
教育	歴史や料理等の生涯学習講座の開催	市民学習意欲の向上 郷土への愛着の形成 参加者同士の交流の促進
	市民学級や高齢者学級との合同学習会の実施	参加者同士の交流の促進



「認知症サポーター養成講座」の様子

＜その他関連する施策の柱＞

3 異文化・多世代交流の促進

楽しみながら地域を学ぶ講座を通じて参加者同士が交流を図ります。また、複数の団体が合同で行う講座を企画することにより、他団体との新たな交流も生み出します。

7 郷土への愛着や誇りの形成

地元を巡るハイキングにより見慣れた地域資源を見直したり、市政についての学習を通じて地域の魅力を認識したりすることで、地域への愛着を育みます。

9 地域課題へのアプローチ

講座を通じて文化芸術活動の人と人、人とコミュニティをつなぐ力を活かして社会参加を促すことで、高齢者が社会的に孤立してしまうことを予防します。



現状と課題

市内において、優れた文化芸術を育て、にぎわいの創出につなげたいという思いをもって、様々なイベントや祭り等が行われています。しかし、事業に携わる人からは、イベントが一過性のものになりがち、実現する能力のある人が市内に少ない、といったご意見もいただきました。

文化芸術に関わる活動やイベントを継続的に実施するためには、文化芸術活動を行うアーティスト等のほか、企画、運営等様々な分野における専門家の知識や技術が必要です。市民の人材育成とともに、このような専門家等を新たに市外から招請して、本市の文化芸術活動に関わってもらえるような機会の創出が求められています。

施策の方向性

既存の優れた文化芸術活動を維持させるとともに、より魅力的で質の高い文化芸術活動を実現し、にぎわいを創出するため、市外の優れた人材の確保、次世代を担う人材の育成や関係人口の創出を進めます。さらには、文化芸術に関わる専門家等の本市への定着を目指し、これらの人材の継続的な活用を推進します。

施策

① 大井川の歴史が育む文化芸術を牽引する人材の育成・確保

文化芸術活動を牽引していこうとする意欲のある者を支援するとともに、様々な文化芸術に関わる事業をプロデュースしたり、コーディネートしたりすることのできる人材を育成していきます。例えば、子どものうちから地域の歴史や産業に触れながら自主性、創造性を育むような体験や事業を企画していきます。

同時に、このような事業を実現できる人材を市内外から確保し、活用することを推進します。

また、優れた人材やその活動への表彰、顕彰制度を充実させるとともに、このような人材が継続的に活動できる環境を充実させます。

② 高い受容性を活かした人材活用の仕組みの充実

本市の文化芸術は多様な人々を受け入れ、その個性を取り込み、発展してきた歴史があります。この高い受容性と柔軟性を活かし、文化芸術活動を自ら行う者、これらの活動を支援する者、事業や活動組織のプロデュースをする者等を活用する仕組みを充実させ、市内で活動するあらゆる事業所や団体のほか、

市内外の大学や高校等の教育機関と連携し、文化芸術活動に関わる組織や人材を結び付けます。

例えば、文化芸術に関わるボランティア活動を行う団体や個人をネットワークを築き、必要な人に情報提供できるような仕組みづくりを目指します。

新たな取組

地域の中で大切に育まれ継承されてきた文化資源と文化芸術活動の担い手となる人々をつなげ、プロデュースまたはコーディネートしていく大胆な発想と広い見識をもった人材の確保と育成を推進します。

○長い歴史のなかで育まれてきた文化資源を舞台として、文化芸術の新たな取組につながる発想力をもった人材を確保するため、その活躍の場を創出するための仕組みづくりを検討します。

○プロデュースまたはコーディネートしていく人材の定着と安定を促すための仕組みづくりを検討し、人材の確保と育成を推進します。

○活動の場と担い手を効率的にマッチングするため、文化芸術活動に関するあらゆる情報を集約し、効果的かつ即応的に発信できるようなプラットフォームづくりについて、広報、シティプロモーションと連携して検討を進めます。

「七タコンサート」「お米とお酒の学校」 「島田の食材と地酒を楽しむ会」

= **文化芸術** × **産業**
× **まちづくり** × **教育**

＜施 策＞ ①大井川の歴史が育む文化芸術を牽引する人材の育成・確保

＜取 組 主 体＞ 株式会社大村屋酒造場

＜事業の概要＞

大村屋酒造場では、地域との共存共栄する酒蔵を目指し、様々なイベントが行われています。

「七タコンサート」は、招かれたアーティストが、酒蔵独特の音響効果の中で音楽を奏でます。「お米とお酒の学校」は地元農家の協力を得て、5月に田植えと案山子づくり、9月に稲刈りと志戸呂焼工房での茶碗やぐい飲みづくり、3月に酒蔵見学とオリジナルラベル

づくりを親子で行います。「島田の食材と地酒を楽しむ会」は

地元の商店街と協力し、地域を大切に人が、地元の食を一緒に楽しみます。

このようなイベントをプロデュースできる人材に、更なる活躍が期待されます。



資料：(株)大村屋酒造場ホームページ

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
産業	地域の商店街と協力したイベントの開催	地域の食文化の発信 地場産業の振興
まちづくり	地域住民と協力し、ともに楽しむイベントの開催	地域コミュニティの強化 地域活性化
教育	農業や陶芸体験等地域ぐるみで行う教育	地域への愛着の形成 担い手の育成

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

無料で参加できる「七タコンサート」や親子で参加できる「お米とお酒の学校」等、誰もが良質な文化芸術に親しめる環境が作り出されています。

3 異文化・多世代交流の促進

市内外から参加したり、親子で参加したり、地域や年齢を超えた交流の促進が図られています。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

地域に根付いた文化や産業を学ぶことにより、大切な地域を守りたいという想いを育み、その資源を保存・継承する担い手の育成につながることを期待されます。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

大井川の伏流水から生まれる地酒を通じて、継続的な人々の交流を生み出したり、地域の活性化につながる優れた機会となっています。

7 郷土への愛着や誇りの形成

地域の食材を使用したイベントや地域に根ざした産業と連携したイベントを開催することで、郷土への愛着を深めることに役立ちます。

「諏訪原城宣伝隊」 の結成

$$= \boxed{\text{文化芸術}} \times \boxed{\text{観光}} \times \boxed{\text{まちづくり}}$$

◆新規事業

＜施 策＞ ①大井川の歴史が育む文化芸術を牽引する人材の育成・確保

＜担 当 課＞ 文化資源活用課

＜事業の概要＞

諏訪原城跡プロモーション事業の1つ。これまで諏訪原城跡に携わってきた著名人等を確保し、継続的に活用していきます。また、これら著名人のプロデュースにより、諏訪原城オンリーワンのものを構築し、全国に発信していきます。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	歴史資源として整備保存してきた諏訪原城跡を利活用し、観光資源として発信	観光客の誘客
	諏訪原城宣伝隊そのものを観光資源として活用	情報発信力の強化
まちづくり	諏訪原城跡周辺で地域住民と協働したイベントを検討	地域コミュニティの強化

＜その他関連する施策の柱＞

4 人をつなぐための情報の整理と発信の強化

写真等でひととき見栄え良く発信されることが期待でき、SNSで情報を拡散することで、諏訪原城跡の知名度が高まります。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

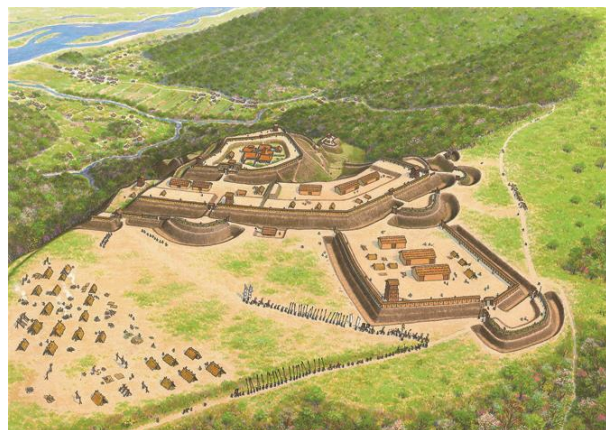
諏訪原城跡を活用できるプロデューサーを育成し、史跡の価値を積極的に来訪者に伝えることで、諏訪原城跡そのものの歴史的価値を高め、諏訪原城跡の保存につなげます。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

諏訪原城宣伝隊と地域固有の歴史資源を結び付けることで、諏訪原城跡に新たな特質を付加し、活用していきます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

市民が諏訪原城跡の歴史や重要性等への理解を深めることにより、郷土への愛着や誇りの形成につなげることが期待されます。



諏訪原城跡推定復元図（香川元太郎作画）



現状と課題

地域で活動する文化芸術団体等への聞き取りから、活動する人が固定化し、その担い手の高齢化とともに活動の継続が難しくなる傾向が見られます。既存の文化芸術活動と、子どもたちや若者、外国人、観光で島田市に訪れる人等との接点が少ない状況にある一方で、おおらかに外部の人や文化を受け入れる市民の気質も存在しています。

また、文化芸術活動を行う市民等の動機を聞くと、単純に「楽しいから」という回答が多く、このような活動を通じて新しいヒト・モノ・コトと出会う喜びが活動の参加や拡大に重要であると考えられます。

外部の視点による評価は、地域の人々が気付かないような文化芸術の価値を再認識させる効果が期待されます。新たな活動の展開や、文化芸術の底上げにつなげるために、多様な人々が活動を通じ積極的に交流を行うことが大切です。

施策の方向性

文化芸術のもつ「人と人をつなげる力」を活かし、多様な世代の多様な文化をもった人々が交流する機会を作り出すことで、文化芸術活動への参加の裾野を広げ、活動の活性化を図ります。

また、多様な交流によって気付きを与えられる地域の文化芸術の価値を市内外に発信し、さらなる交流の促進につなげていきます。

施策

① 多様な人々が出会う機会の創出

文化芸術を活用し、楽しみながら地域を知ることができたり、新しいものとお出える喜びを感じたりすることのできるイベント等を開催します。

そこで、子どもと大人、市民と観光客等と一緒に活動できるような、世代や地域を超えた人と人との交流を生み出します。特に市外の人との交流が、地域固有の文化芸術を再評価するきっかけとなることに期待します。

2020年の東京オリンピック、パラリンピックや2025年の大阪・関西万博等は、これまで本市に関わることのない人々との交流を生む可能性を秘めています。これを一過性のものとせず、国内外に本市をアピールし、交流につなげていく取組を進めます。

② 地域の寛容さが培った交流の促進

渡渉制度(*)による各地の人々の滞留は、地域に何事もおおらかに受け入れる寛容さをもたらしました。この寛容さは多様な人々の交流を促進させるだけでなく、受け入れた文化を発展させ、地域独自の文化芸術を作り出す源泉となりました。このような気質を活かして多くの人と文化が行き交う場を創出し、文化芸術活動への参加を促します。

例えば、東海道沿いの歴史的文化的雰囲気を活かしたカフェやレストランを、交流の場として活用すること等が考えられます。

(*) P12 脚注を参照してください。

③ 文化芸術活動と関連分野の連携による交流の促進

継続的に営まれている文化芸術活動を観光やまちづくり等の施策と結びつけ、活用することで文化芸術そのものの価値を高めるとともに、文化芸術のもつ人と人、人と地域等をむすびつける力を関連分野に波及させ、ヒト・モノ・コトの新たな交流を推進します。

多くの観光客を集める「島田大祭」や「大井川大花火大会」、地域の食文化に関わる「島田の逸品」等については、伝統的、文化的な価値を意識した交流の展開が期待されます。

新たな取組

地域固有の文化を効果的に市内外へ発信し、地域の文化資源を活用した文化芸術活動における交流を深める取組を積極的に進めます。

○文化芸術活動における多世代交流を積極的に推進するため、地域の協力を得ながら、学校教育分野及び社会福祉分野と連携し、子どもから高齢者までが、文化芸術活動を通じて一緒に活動できる取組を検討します。

○文化芸術活動における異文化交流を促進させるため、国際交流分野や観光分野と連携し、あらゆる外国人訪問者が地域固有の文化芸術の香りを肌で感じることでできる取組について検討します。

「KADODE OOIGAWA」 の運営

$$= \boxed{\text{文化芸術}} \times \boxed{\text{観光}} \times \boxed{\text{産業}}$$

＜施 策＞ ②地域の寛容さが培った交流の促進

＜取 組 主 体＞ 大井川農業協同組合、大井川鐵道株式会社、
中日本高速道路株式会社、島田市

＜事業の概要＞

新東名島田金谷インターチェンジ周辺に、マルシェ、野菜ビュッフェレストラン、カフェ、子どもの遊び場等で構成される賑わい交流拠点が整備され、さらにその一角に観光案内所が開設されます。

広域からの静岡中部エリアへの玄関口として、地元の産業や食文化に触れる機会の創出、観光等の情報発信を行うことで、交流人口の拡大を目指します。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	地場産品や体験活動、食文化及び歴史等を観光資源として発信	観光客の誘客 経済活動の活性化 地域資源に対する価値の再確認 歴史文化の発信
産業	野菜ビュッフェレストラン、カフェでの地元農産物を使った食事の提供やマルシェ等での地場産品の販売	地産地消の促進 経済活動の活性化 地場産品の発信 地場産業の振興 雇用の創出 農業振興



施設のロゴ

資料：KADODE OOIGAWA(株)

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

地元農産物を使用した食事を提供することで、地域の食文化に親しむことができます。

4 人をつなぐための情報の整理と発信の強化

地元農業生産者、商工業者、宿泊業者、観光業者等多様な事業者が連携することにより、効率的な情報発信が期待できます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

身近にある地場産品や体験活動、食文化及び歴史等を市内外に発信することにより、地域住民がそれらの価値を再認識し、地域への関心が高まることが期待できます。

8 領域を超えた柔軟な連携

大井川農業協同組合、大井川鐵道株式会社、中日本高速道路株式会社、島田市の4者連携プロジェクトとして、食と農を基軸に地域に根ざした施設として持続可能な農業と地域の魅力を発信する拠点機能を実践します。

「海外都市との学生派遣・受入事業」 = 文化芸術 × 国際交流 × 教育 × 観光

◆継続事業

＜施策＞ ①多様な人々が出会う機会の創出

＜取組主体＞ 島田市国際交流協会、島田市

＜事業の概要＞

森昌也元市長の、「島田が小都市であっても、そこに住む市民は、高い世界的な感覚をもっている」という市民生活を生み出すという考え方のもと、昭和36年にアメリカ合衆国カリフォルニア州リッチモンド市と姉妹都市提携の締結をし、交流をはじめました。



リッチモンド市との学生交流の様子

そしてさらに他の海外都市とも市民交流が盛んとなり、リッチモンド市のほか、5つの海外都市と交流をするようになりました。

島田市国際交流協会及び島田市は、海外都市との互いの生活文化の理解、青少年への教育的効果、市民の国際感覚の養成等を期待し、市内在住学生の国際交流事業を支援しています。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
国際交流	海外の姉妹都市・交流都市への学生の渡航によるホームステイ、学校訪問	異国の生活文化の体験・理解
	海外の姉妹都市・交流都市からの学生の受け入れによるホームステイ、学校訪問	外国人への日本文化の教授
教育	リッチモンド市やモンゴル国との学生の相互派遣を実施	外国語力の向上 国際感覚の養成 地域資源の再認識
観光	海外渡航先へ島田市をPR	地域資源の発信 歴史文化の発信 郷土への愛着の形成

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

海外の学生との交流を通じて、誰もが多様な文化芸術を楽しむ機会を作り出します。

2 にぎわいを創出する人材の育成・確保・活用

今後の島田市を担う人材の育成を行います。

7 郷土への愛着や誇りの形成

異文化を知ることで郷土愛を育み、郷土文化の価値を再認識する機会を作り出します。



現状と課題

文化芸術に関する情報は、団体それぞれが個別に情報発信を行っているところが多く、人や団体、活動のつながりが薄く、分野の枠を超えた情報の共有・連携があまりされていない、かつ、情報が整理されていない状況にあります。

また、市民意識調査の結果からは、文化芸術活動をしなかった理由として、「きっかけや情報がないから」が最も多く、文化芸術に関する情報は、広報紙や回覧板、チラシ、口コミ等のアナログ的な情報から入手していることが分かりました。しかし、人々の生活においてデジタルシフトが進む中、アナログ的な情報発信のみでは、効果的な情報発信ができていない可能性があることが窺われます。

多様な情報を共有・連携させるとともに、情報を整理し、幅広い文化芸術に関する情報をニーズに合った層に的確に届けることが必要となっています。

施策の方向性

文化芸術の広がりとその活動促進に向けて、情報の果たす役割がより重要になっています。

デジタル技術等を活用して、市内の様々な文化芸術活動や各種団体等の枠を超えた情報を共有・連携させ、情報の整理と効果的な情報発信を行うことで、人と人、イベントと人を結びつけるとともに、様々な分野へ文化芸術の力を波及させます。

施策

① 情報の整理と多様な情報発信

文化芸術に関する情報の共有化と情報の整理により、誰もが文化芸術に関する情報を得やすい環境を作るとともに、イベントやパンフレット、マスコットキャラクター等既存のメディアに加え、SNSやデジタル技術等を活用した情報発信をしていきます。

② マーケティング的思考に基づく効果的な情報の発信

デジタル技術等を活用し、情報を届けたい相手に対し、最適なタイミング、最適な手法により情報を届けることで、より効率的・効果的な情報発信をしていきます。

新たな取組

市民等の文化芸術活動やイベントへの参加促進、文化芸術活動団体の活動促進等、本市の文化芸術を推進する機運を醸成するため、デジタル技術を活用した、ヒト、モノ、コトをつなぐ、情報の整理と効果的な情報発信を推進します。

○文字、音声、画像、動画等の様々なデジタル技術の手法を効果的に用いることにより、誰もが親しみやすく、情報を得やすい環境をつくれます。

○市民等におけるデジタルシフトに対応するため、SNS や最新デジタル技術を活用し、効果的に情報を発信します。

『大井川の恵み』と『地域資源』

文化遺産としての活用の可能性 ～島田市域の文学碑～

島田市には、江戸時代、大井川を挟んで東海道 23、24 番目の宿場町である島田宿、金谷宿が存在し、交通の要所として栄えました。

当時、大井川は橋を架けることが禁じられたため、川越制度による川留めにより、松尾芭蕉に代表される多くの俳人や絵師、書家たちが両宿場に逗留しました。このときの地元の文化人との交流を示す痕跡が当地域に多く残されています。そのような交流は、昭和時代まで続きました。

このようなことから、芭蕉が大井川を題材に当地域で詠んだ俳句の句碑や、島田市にゆかりのある文学者等の文学碑が市内各所に 30 箇所ほど建立されています。

今後は、こうした地域の歴史的・文化的な特性を示す文化資源を、市民の健康増進や観光産業等と連携しながら活用する取組も必要です。

「ラジオ放送」

$$= \boxed{\text{文化芸術}} \times \boxed{\text{まちづくり}} \times \boxed{\text{産業}}$$

＜施 策＞ ①情報の整理と多角的な情報発信

＜取 組 主 体＞ 株式会社 FM 島田

＜事業の概要＞

市民の生活文化になりつつあるラジオ放送を通じて豊かな地域社会を作り出すとともに、地域住民の安心安全を守ります。

暮らしの情報やイベント、市民等の様々な活動を募集し紹介したり、地元の事業所等のCMを放送します。地域に密着した情報の集積と発信の拠点となり、ヒト・モノ・コトを結び付け、様々な分野へその力を波及させます。



FM 島田ロゴ
資料：(株)FM 島田

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
まちづくり	ラジオ放送を通じた暮らしの情報の発信	地域の活性化
	ラジオ放送を通じたイベントの募集と告知	交流の促進
	ラジオを通じた災害情報の伝達	地域の安全安心の確保
産業	ラジオを通じた地元事業者の販売促進支援	地域経済の活性化 地域産業の振興 地場製品の発信

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

ラジオを通じて文化芸術活動を地域へ発信することで、その活動の維持と発展を支援します。

3 異文化・多世代交流の促進

ラジオを通じて人と人、人とイベントを結び付け、新たな交流を作り出します。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

ラジオを通じて出会うヒト・モノ・コトから生みだされる新たな文化芸術とその活用方法を創出します。

7 郷土への愛着や誇りの形成

地域に密着した情報の収集と発信を続けることにより、郷土への愛着を育みます。

8 領域を超えた柔軟な連携

活動の場を求める文化芸術活動者とイベント主催者等を結び付ける役割を担うものとして期待します。

「蓬萊橋」保存活用

$$= \boxed{\text{文化芸術}} \times \boxed{\text{観光}} \times \boxed{\text{産業}}$$

◆継続事業

＜施 策＞ ①情報の整理と多角的な情報発信

＜担 当 課＞ 農業振興課、観光課

＜事業の概要＞

牧之原台地の開墾のため、明治12年に架けられた農業用の橋。

「世界一長い木造歩道橋」としてギネスブックに認定されたことで世界に発信されていることもあり、多くの観光客の来訪があります。また、全長「897.4m」ということから「やくなし」＝「厄無し」、「長い木の橋」＝「長生きの橋」等、厄払いや長寿のご利益スポットとしても発信しているほか、景観に優れた特徴的木橋として映画やドラマのロケ地として活用されており、地域の貴重な資源として全国に広く情報発信しています。

また、地域が大切に守り続けてきた「わがまちの宝」として島田市民遺産にも認定されています。蓬萊橋は地域や文化・歴史をつなぐ架け橋であり、PRを通じて文化遺産の保存・活用、継承を進めます。



蓬萊橋

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	農道として管理されている橋を、「世界一長い木造歩道橋」として発信することで歴史資源、観光資源として発信	観光客の誘客 通行料の増収により橋の修繕費の一部に充当
産業	全長「897.4m」にちなみ名づけられた「蓬萊橋897.4茶屋」(ほうらいばし やくなし ちゃや) でお茶等を販売	経済活動の活性化 茶産業の振興

＜その他関連する施策の柱＞

3 異文化・多世代交流の促進

蓬萊橋イベント広場では、蓬萊橋と大井川を舞台とした文化芸術活動が行われ、多様な人々の交流を促進させます。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

地域の主要産業である茶業を支え、発展させてきた歴史を現在に伝える現役の文化遺産として積極的な活用を図り、新たな文化の創出につなげます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

身近に存在する豊かな自然と地域が守り続けてきた歴史的資源を次世代につなげるとともに、その価値を更に高めたいという想いを育みます。



現状と課題

大井川や茶畑等の景観、川越遺跡や諏訪原城跡をはじめとする文化財、地域の祭りや伝統芸能等は、地域の個性や文化の源泉となる貴重な地域資源です。しかし、自然や景観は身近であるため、地域の文化資源として意識されることが少ない状況です。また、祭りや伝統芸能の保存団体への聞き取りによって、活動を支える担い手の確保に苦勞しており、歴史ある伝統の継承が危惧されています。

自然や景観、伝統芸能等は、一度失われると元に戻すことが難しいかけがえのない地域資源であり、これらを大切に守り、次世代につなげることが大切です。

施策の方向性

大井川や茶畑の景観、豊かな自然環境、豊富な文化財、この土地に伝えられてきた伝統芸能や祭り等、かけがえのない地域の文化・習慣等を大切に保存し、次世代へと確実に継承していきます。保存・継承すべき資源や文化財の調査を進め、これに必要な人材の育成を進めます。

施策

① 大井川の恵みを源泉とした資源の調査と保存

地域を特徴づける自然や歴史、文化の状況を調査し、これらを大切に保存します。文化財だけでなく、大井川にかかる蓬萊橋や金谷側から大井川の対岸に望む富士山といった文化的な景観も対象とします。

調査の結果、消滅の危機にあると考えられる重要な地域資源について、保存のための対策を行います。

② 祭りや伝統芸能等の担い手の育成・確保

地域や学校等を通じて地域に伝わる祭りや伝統芸能等、文化的価値のある大切な地域資源を保存・継承する担い手を育成するとともに、Iターン(*)やJターン(*)、Uターン(*)により、人材を確保します。

(*) Iターンは、都市部から出身地とは違う地方に移住して働くこと、Jターンは、故郷から進学や就職で都会に移住した後、故郷に近い地方都市に移住すること、Uターンは、地方から都市に移住した人が、再び故郷に戻ることをいう。

新たな取組

地域の祭りや伝統芸能の保存と継承のため、活動団体等に対する支援を強化し、担い手やその価値を学び伝えるボランティアの育成につなげます。

○祭りや伝統芸能の担い手としての活動団体を多面的に支援するための仕組みを強化するとともに、普及啓発に必要な活動の場の創出を推進します。

○歴史文化の発信源となっている博物館施設の事業と連携し、市内外の多くの人々にその魅力を感じることでできる方策を検討します。

○伝統的な活動を支えるためのボランティアの育成を強化し、継続させていくため、ボランティアの担い手の年齢層を拡げる取組として、学校教育の現場との連携を推進します。

『大井川の恵み』と『人』

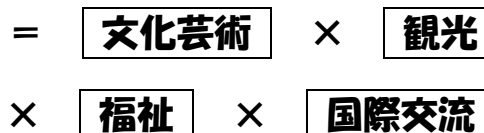
島田の文化芸術活動の先駆者たち らんけいかい ～蘭契会～

明治政府が青年活動を推奨した時期に、島田でも島田青年会が活発な活動を行っていました。島田青年会のメンバーを主として、島田の名家の子息が作った団体が蘭契会です。蘭契会は、著名な画家の展示会、科学者の講演会、音楽会、美術展等、島田において先駆的な文化芸術活動を行っており、今日の島田の文化芸術活動の礎を築いたといえます。

会の中心メンバーの一人で、島田市名誉市民でもある清水眞一氏（1889-1986）は、戦前から画廊を開いて展示活動を行っており、博物館で企画展も行われている人物です。清水氏の活動はその弟子たちによって現在まで引き継がれています。

大正14年、会の夏季講座の講師として来訪した理学博士石原純が、蓬萊橋のほとりで詠んだ即吟は、今も現地の石碑に残されています。

「金谷大井川川越し太鼓」



＜施 策＞ ②祭りや伝統芸能等の担い手の育成・確保

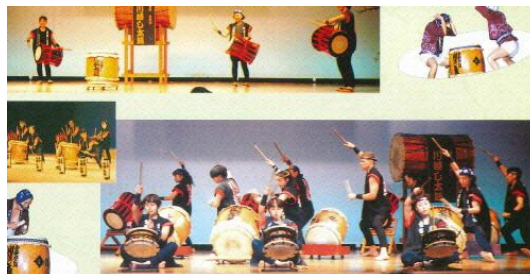
＜取組主体＞ 金谷大井川川越し太鼓保存会

＜事業の概要＞

正月に子ども達が「太鼓の奪い合い、打ち合い」をしたのが発祥といわれ、市指定無形民俗文化財として保存・継承されています。

元来のイメージを壊さないように配慮しながら曲作りをはじめ、すべて地元の人の手によって作り上げ、運営されて現在に至っています。

日本太鼓財団の行う県大会、全国大会、シニア大会等への出場を通して、祭りや伝統芸能等の担い手の育成・確保を行っています。また海外演奏を通して、活動の場を広げ、文化交流、国際交流活動を推進しています。



資料：金谷大井川川越し太鼓 リーフレット

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	祭りやイベントでの公演	観光客の誘客 地域固有の伝統芸能の発信
福祉	福祉施設での演奏 障害者によるチャレンジチームの演奏	施設入所者等の心身の療育 障害者の社会参加
国際交流	海外での公演	異文化交流の促進 多様な価値観の認識 地域資源に対する価値の再認識

＜その他関連する施策の柱＞

2 にぎわいを創出する人材の育成・確保・活用

すべて地元の人により作り上げ、運営されていることから、文化芸術活動を牽引する人材が確保されています。

3 異文化・多世代交流の促進

市内外の太鼓演奏団体との交流や、積極的な海外演奏による国際交流が行われます。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

国内外で演奏することで、外部の視点を柔軟に取り込み、大井川にちなんだ新たな作品の創作・上演が期待されます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

これまで作曲してきたものに加え、大井川にちなんだ新たな作品の演奏が期待される等、地域資源を大切に思う心が育まれています。

9 地域課題へのアプローチ

福祉施設での演奏やチャレンジチームの演奏は、誰もが社会とつながり、社会参加することを実現しています。

「指定文化財保存事業」 = **文化芸術** × **観光**
× **まちづくり**

◆**継続事業**

＜施 策＞ ①大井川の恵みを源泉とした地域資源の調査と保存

＜担 当 課＞ 博物館課

＜事業の概要＞

市内には、国指定文化財7件、県指定文化財29件、市指定文化財50件、国登録有形文化財4件が存在します。これらは地域の個性や文化の源泉となる貴重な地域資源であり、恒久的な保護・保存に努め、市民が文化財に親しむことのできる環境を守ります。



智満寺本堂

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	文化財を確実に守ることによる、観光資源としての価値を向上	観光客の誘客 文化財知名度の向上
まちづくり	地域に伝わる固有の祭りの実施 伝統芸能等の披露	郷土への愛着の形成 地域コミュニティの強化 世代間交流の促進 観光客の誘客
	文化財消防訓練	文化財の価値の認識 郷土への愛着の形成

＜その他関連する施策の柱＞

3 異文化・多世代交流の促進

伝統芸能等の無形文化財の継承には、多世代が関わる必要があります。このような保存・継承活動をきっかけに世代を越えた交流が促進され、地域コミュニティが強化されることに期待します。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

魅力ある地域固有の文化財を守ることによって、これらを新たな視点で捉えたり、他の要素と組み合わせて、新しい地域資源の価値を見出し、新しい文化の活用と創出が可能となります。

7 郷土への愛着や誇りの形成

身近な地域に伝わる伝統芸能等の価値を認識し、地域への愛着や誇りを見出すことが、郷土の文化を守り、その価値をさらに高めたいという思いにつながります。



現状と課題

市民意識調査から、市民が地域らしさを感じる資源として、大井川、蓬萊橋、SL、茶畑等、本市を代表する資源があげられました。一方で、大井川や茶畑のような地域資源に対しては、目新しさを感じない、他市町と差別化が図りにくい、それぞれの資源が個々にあり互いの関わりが見えにくい、といった意見もあります。

市民意識の底流には、「大井川」と、「大井川がもたらした恵み」である文化の存在が大きいと考えられます。今この土地にある資源を大切にしながら、新たな視点で既存の資源を魅力的に提示、活用して、新しい文化の創出につなげていく必要があります。

施策の方向性

歴史を重ねて培われてきた、お茶や大井川にまつわる地域固有の資源等を守り、その魅力を育み、新たな価値を見出します。このような文化資源の発信と活用をしながら、これらを核とした地域独自の新しい文化芸術の創造を目指します。

例えば、お茶にまつわる物語性をもった文化資源のひとつに蓬萊橋があります。かつて牧之原台地で育てた茶を、大井川を渡って運ぶために、農家が架けた橋であり、このような歴史や故事を丁寧に発掘し、観光やまちづくりとからめて活用していくこと等が考えられます。

施策

① 地域資源とその背景にあるストーリーの継続的発掘

本市のブランドメッセージである「島田市緑茶化計画」の商品開発には、お茶にまつわるストーリーづくりが欠かせません。商品を魅力的に提示するストーリーは、資源を普段と異なる視点で捉えたり、別の何かと組み合わせたりすることにより生まれるものです。

このようなストーリーづくりを通じて、魅力ある地域固有の資源を守りつつ、新たな特質を付加し、価値を高めていきます。また、未だ見出されていない地域資源の掘り起こしを推進します。

② 交流を促進させる文化芸術の活用方法の構築

文化芸術を観光やまちづくり等、異なる分野と連携させることで、その新しい活用方法を見出し、交流を促進させます。また、文化芸術活動やその根源となる

地域資源をその背景にある歴史や故事、人物等と結び付けることで特質を付加し、今までにない活用方法を創出します。

これまでも、大井川鐵道においては、登録有形文化財の駅舎を活用した交流イベントや、無人駅を会場にしたアートイベントが開催されています。今後は、お茶請けの和菓子のような食文化と観光イベントを組み合わせることで交流を生み出すこと等が考えられます。

③ 茶文化の発展と新たな文化芸術の創造

全国的にもその品質を高く評価されている本市のお茶。しかし、県内の他市町や全国各地にお茶の産地は数多く存在しています。

「茶」で本市が他市町より秀でるために、地域の個性となる大井川の恵みを組み合わせて提示し、茶葉を楽しむだけでなく、お茶に関わる文化に彩りを加え発展させます。

また、地域資源を源泉に、若年層や外部の視点を柔軟に取り込み、地域固有の文化芸術を作り出します。

新たな取組

生活文化として根付いている緑茶を中心に、地域の歴史文化資源の背景にあるストーリーを活かしたイベント等の企画や商品開発を目指します。

- 戦国時代や江戸時代から現代までの先人たちの歴史文化の保存・継承の取組をひもとき、新たな視点で異なる分野と連携した活用を目指します。
- シティプロモーションとしての「島田市緑茶化計画」と連携し、地域固有の文化を発信するための新たな展開を検討します。
- 産業分野と連携し、地域固有の歴史文化の中で育まれてきた地場産業の再発見と発展に貢献する商品開発を目指し、文化芸術活動が新たなビジネスモデルにつながる取組を推進します。

「愛するあなたへの 悪口コンテスト」

= **文化芸術** × **観光**
× **まちづくり**

＜施 策＞ ②交流を促進させる文化芸術の活用方法の構築

＜取 組 主 体＞ 愛するあなたへの悪口コンテスト実行委員会

＜事業の概要＞

通称悪口稲荷とよばれる市内柳町にある御陣屋稲荷神社にちなみ、愛しているがゆえについつい言ってしまう悪口を全国から募集するコンテスト。

江戸時代から今日まで、町の人々に“風刺（悪口）稲荷”として愛されてきた「陣屋」のお稲荷様に、「腹をわって話をすれば、きっとお稲荷様が縁を深めてくれる」という新たな価値を付け加え、今までにない活用方法を見出しました。稲荷神社の伝承を活かした悪口コンテストを継続して

いくことで、地域固有の文化の活用と創出につながっています。さらに、悪口稲荷を切れかかった縁を結び直すお稲荷様として全国発信し、新たな集客拠点となることに期待します。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	悪口稲荷を縁結びスポットとして全国発信	新たな集客拠点の創出 観光客の誘客
まちづくり	悪口稲荷と言われる所以を源泉としたイベントの開催	地域への愛着の形成 文化振興
	入選作品をおび通りに掲示	地域活性化

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

日常の出来事を題材に、紙とペンさえあれば年齢も地域も関係なく、誰でも参加できるイベント。「悪口も言いようで文化」という主催者の心意気が浸透し、誰もが気軽に楽しく、愛する人に向けて文化を楽しむ環境を作り出します。

3 異文化・多世代交流の促進

高校生審査員賞を設け、高校生が審査会に参加。世代を超えて、作品に対する意見交換を行うことで、新たな交流を生み出します。

4 人をつなぐための情報の整理と発信の強化

審査員の知名度や実績を積み重ねて、全国からの多くの応募があるため、これまでに蓄積したノウハウを活かして、より効率的な島田のPRにつなげていきます。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

悪口を集める稲荷というユニークな地域資源を積極的に活用することで、固有の文化の保存、継承につなげていきます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

江戸時代より芸能・文芸に伝統のある本市において、身近に存在する地域資源に価値を見出し、愛情を加えることで地域への愛着を育みます。



資料：「第16回愛するあなたへの悪口コンテスト」チラシ

茶室棟「杉風庵」の 管理・運営

$$= \boxed{\text{文化芸術}} \times \boxed{\text{観光}} \times \boxed{\text{まちづくり}} \times \boxed{\text{教育}}$$

◆継続事業

<施 策> ③茶文化の発展と新たな文化芸術の創造

<担 当 課> 川根地域総合課

<事業の概要>

茶室棟「杉風庵（さんぷうあん）」は、日本の伝統文化である茶道を通じた文化の発展及び茶業の振興を目的として開設されました。

当該施設を利用した茶道のお稽古やお茶会の開催、大学茶道部の文化合宿等を誘致することで、茶文化の振興や地域との交流を促進させます。また、小・中学生の体験学習やイベント等の開催により、茶道や茶文化を多くの人々に知っていただく最良の場となっています。



杉風庵

<連携分野>

分野	連携内容	効果
観光	イベント等への活用 文化資源、観光資源として発信 温泉や近隣の観光施設と連携した情報の発信	観光客の誘客
まちづくり	杉風庵を舞台とした「島田市緑茶化計画」 動画作成	茶文化の発信 シティプロモーションの促進
教育	小・中学生を対象とした体験事業への活用	礼儀作法の習得 地域への誇りや愛情の形成
	大学等の文化合宿への活用	茶文化の発展 交流の促進
	茶道のお稽古等生涯学習への活用	市民学習意欲の向上

<その他関連する施策の柱>

1 誰もが参加できる環境づくり

茶室棟の多目的な活用を促すことにより、これまで茶道や茶室に関わりの少なかった人を呼び込み、交流の場となることが期待されます。

3 異文化・多世代交流の促進

イベント等で茶室棟を活用し、茶道のお手前を披露する等、茶文化を通じて多くの人々の新たな交流を生み出します。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

小・中学生の体験学習を通じて、地域に伝わる大切な文化を守りたいという思いを育むことで、担い手の育成につなげます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

地域の茶文化を支える自然、人、産業との関わりを通じて、郷土への愛着と誇りを深めることが期待されます。



現状と課題

本市には、東海道と大井川のもたらした2つの宿場町と東西文化の交流の歴史、大井川や富士山の景観や身近な生活文化等、誇るべき地域資源が数多く存在しています。しかし、これらは市民にとっては身近すぎるゆえ、その価値が十分に評価されていません。

郷土の文化芸術の発展のためには、人々がその土地への愛着と誇りをもって固有の文化芸術活動を営んでいくことが必要不可欠です。そのためには、地域の人々が資源の存在を認識し、さらにその価値を正しく理解することが重要です。

施策の方向性

地域への愛着や誇りの形成は、郷土の文化芸術への積極的な関わりを生み出し、守りたい、その価値を更に高めたいという想いを育みます。

そのために、地域資源を価値あるものとして位置づけ、地域の人々の郷土への愛着や誇りの形成につながるよう、学校教育や社会教育の現場で地域資源の価値を学ぶ機会を充実させつつ、保存と活用を推進します。

施策

① 市民総がかりで取り組む島田の教育との協働

豊かな心と学びを地域ぐるみで育むことを目指す教育と協働した取組を行います。特に、郷土の文化芸術に係わる学校への出前授業やコミュニティ・スクールの実施等、学校教育や社会教育と協働を促進します。

例えば、地域の人を講師として、小中学生が地域に出て、生きた教材で学ぶとともに、地域の多様な年代や立場の人と交流できる、多様な取組を進めます。

※コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の6）に基づいた仕組みです。（資料：文部科学省HP）

② 自然と文化が織りなす地域資源の再評価、認識、活用

身近に存在する豊かな自然とこれまで培われてきた文化等、見慣れた地域資源に価値を見出し、活用することで地域への愛着を育みます。

市民が目にしやすい公共施設等、身近な場所を会場に、食文化等の生活文化、地域の主要産業であった製材に関わる木の文化等を伝える活動を進めます。

新たな取組

学校と地域が連携し、大人も子どもも地域への積極的な関わりを生み出すことで、郷土への愛着と誇りを醸成させる取組を推進します。

○大井川を中心に長い歴史の中で育まれてきた地域固有の文化の価値を正しく理解し、郷土愛と誇りを醸成させるため、学校、地域、行政が連携した講座や体験学習等のイベントの開催を推進します。

○学校教育の枠組みを乗り越え、親子、祖父母と孫等、多世代で同じ時間と場を共有し、家族で楽しみながら学ぶことのできる環境を創出し、郷土への愛着や誇りの形成を育むとともに、多世代交流の促進にもつなげます。

○学校教育のカリキュラムのなかで、創り出される児童・学生の手による作品を芸術作品のひとつとして捉え、まちなかで展示・演出するようなイベントにより、子どもたちによる芸術と鑑賞者としての大人の交流、出会う場の創出を推進します。

『大井川の恵み』と『場』

牧之原台地の茶園開拓 ～夢を運んだ蓬萊橋～

牧之原台地の茶園開拓は、明治時代に静岡に移住してきた旧幕臣によってはじめられました。幕末維新に徳川慶喜の護衛に重用された中條景昭や大草高重、坂本龍馬を斬ったと伝えられる今井信朗といった人々が中心になり、当時の静岡藩の中核を担った勝海舟、山岡鉄舟らの支援を得ながら、10年以上の年月をかけて開拓が軌道にのせられたのです。彼らの開拓の成功を受け、島田中心部の人々も茶園開拓に加わりました。明治12年、島田宿側から大井川対岸の初倉の茶園に通うために、架けられたのが蓬萊橋です。この橋は、旧幕臣という外の人々と島田の人々が手を取り合い、茶園開拓という夢を実現させ、今日の島田の茶業の発展を象徴する場といえます。

「高校生による

メディア芸術の活用」

$$= \boxed{\text{文化芸術}} \times \boxed{\text{まちづくり}} \times \boxed{\text{教育}}$$

＜施 策＞ ①市民総がかりで取り組む島田の教育との協働

＜取組主体＞ 島田工業高校 情報技術科

＜事業の概要＞

授業の中に、舞台照明、音響技術、テレビ映画放送技術等の本格的なメディア芸術を取り入れ、その成果を地域のイベント等で披露し、地域への愛着を育むとともに、生徒の社会性を養います。



終戦記念ドキュメンタリー撮影風景

2017年度にはグランシップ（静岡県コンベンションツアーセンター）の実施する子ども向けイベント「グランシップオープンシアター」で、舞台技術の裏方体験コーナーを担当し、子どもたちにメディア芸術に触れる機会を提供しました。

また、2019年度島田市平和祈念式典ではドキュメンタリー映像「模擬爆弾 島田空襲の真実」を発表。企画から撮影、編集までを生徒が行いました。この映像は今後学校現場や地域での平和教育に活用されます。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
まちづくり	地域のイベント等で、メディア芸術を活用したボランティア活動等の実施	社会性の育成 協調性の向上 地域活性化 郷土への愛着の形成 世代を超えた交流の促進
教育	メディア芸術の技術を市内高等学校で習得	専門技術をもった人材の育成・確保

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

子ども向けイベント等、様々なイベントで活動することにより、多くの人々が学生のもつ技術を通じて文化芸術に親しむことができます。

2 にぎわいを創出する人材の育成・確保・活用

高校生が音響や照明等の高度な専門性をもった技術に触れ、技術を習得できる環境があることで、放送や舞台の専門技術者を志す人材の育成につながっています。

3 異文化・多世代交流の促進

子ども向けイベントでは、異なる年代との交流が生まれます。また、ドキュメンタリー映像の撮影等では、取材を通じて年齢や経験、価値観等が異なる人々との交流から得られる情報もあります。これらの活動をきっかけに、更なる交流が促進されることに期待します。

8 領域を超えた柔軟な連携

若者の主体性のある活動への支援が、社会貢献活動になるとともに、将来的に人材の育成・確保につながるといったメリットを事業所が理解し、文化芸術活動団体への支援へとつながることに期待します。

「夢育・地育 推進事業」

= **文化芸術** × **まちづくり**
× **教育**

◆継続事業

＜施 策＞ ①市民総がかりで取り組む島田の教育との協働

＜担 当 課＞ 学校教育課

＜事業の概要＞

子どもたちが未来に向かって夢を膨らますことができるよう
な、文化芸術活動を学校教育に積極的に取り入れ、地域の特色、
地域の人材や地域資源を活かした教育活動を実施します。

「豊かな心をもった子どもを育成する」ために、こころの劇場
(劇団四季の鑑賞) や音楽鑑賞教室等、各小・中学校が工夫した企画
を毎年度策定し、子どもたちの夢や地域愛を育む教育活動を推進します。

出前授業の講師として、地域で文化芸術活動をしている人材を登用し、彼らの活動の場を広げ
るとともに、やりがいの創出を目指します。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
まちづくり	地域で活動する人材を講師として活用	地域への愛着の形成 地域コミュニティの強化
教育	出前授業で、地域で活動する陶芸、和太鼓、 手もみ茶、お囃子等の団体や声楽家や楽器 演奏者等の講師を招いて体験授業の実施 茶業団体からの急須のプレゼント付きお茶 の淹れ方体験教室の実施	地域の文化芸術を牽引する人材の 活用 地域資源の認識 地域文化の担い手の育成 世代を超えた人々の交流の促進 地域への愛着の形成 地域コミュニティの強化 地域の食文化の理解



島田北中学校での
門松づくりの様子

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

学校教育と連携して、子どものうちから良質で多様な文化芸術活動に触れる機会を創り出
すことで、これらの活動に気軽に参加し、好みの活動を自ら選択して関わることにつながり
ます。

2 にぎわいを創出する人材の育成・確保・活用

学校教育の場にアーティストや専門家を学校等に招くことにより、彼らと学校との関わり
を生み出し、活動の機会を創出し、優れた文化芸術活動を牽引する人材の育成につなげるこ
とが期待されます。

3 異文化・多世代交流の促進

学校教育と連携して、年代の異なる講師との多世代交流の場となります。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

陶芸、和太鼓、お囃子等、郷土の文化を母体とした活動を、子どもたちへの教育に取り入
れることで、伝統的な祭りや行事、習慣等を保存し継承することにつなげていきます。



現状と課題

事業所等への意識調査結果からは、本業と文化芸術との関係が希薄と考えられており、文化芸術活動への支援に対してメリットを感じない、支援の方法がわからない等の理由により、その関わりについて消極的な傾向が読み取れます。

しかし、茶業や木工業、ものづくり産業といった地域の産業活動から、本市の様々な文化芸術が生み出されています。文化芸術活動を維持・発展させていくためには、市内の事業所や団体等による積極的な関わりが欠かせません。また、事業所等と支援が必要な団体等をうまく結びつけて、文化芸術活動への支援を充実させるため、文化芸術と産業、観光等との柔軟な連携が必要となっています。
※事業所等：企業、学校、病院、福祉施設、国際交流等の非営利団体等をさします。

施策の方向性

市内の事業者等に対して、産業と文化芸術との関わりを明らかにし、新たな文化芸術の創造につなげます。

文化芸術活動の支援に関する情報提供を充実させて、営利、非営利を問わず事業所等の支援活動を推進します。また、支援を必要とする側と支援をする側が柔軟に連携することで、地域の特徴を活かした文化芸術を育みます。

施策

① 産業により創造・継承される文化芸術の活用

地場産業は地域の経済を支えると同時に、生活文化を支える側面があり、産業そのものが価値ある文化芸術活動となる可能性を秘めています。事業所自らが行う産業から文化芸術の要素を抽出し、その力を観光やまちづくりに活用することを推進します。

② 文化芸術活動への支援体制の充実

市内の事業所等に、文化芸術活動を支援するメリットや多様な支援方法を周知するとともに、文化芸術活動団体等が事業所等から支援を得やすい体制を整えます。

例えば、病院や福祉施設等に子どもたちや市民が製作した作品展示の場を設けることで、作品発表の場を作るとともに、多くの人の目に触れることで新たな支援のきっかけにつながることを期待されます。

③ 文化芸術活動団体とイベントをつなげ、交流を促進させる仕組みづくり

活動の場を求める文化芸術団体とイベント主催者等のニーズを把握し、両者を結び付ける仕組みを充実させることで、文化芸術を通じた交流を図ります。例えば、しまだ大井川マラソンや蓬萊橋観月会、街角ライブ等既存のイベントの充実、活性化と新たな活動展開につなげていくことが期待されます。

新たな取組

産業それ自体がもつ文化的な価値に気付きを与える講演会や、文化芸術を意識した事業展開に対する勉強会等を推進します。

- 産業振興やまちづくり等を通じて、商業活動が文化的発展に寄与するために必要な視点や方策を探る講演会やワークショップの開催について、関係機関との連携を深めながら推進していきます。
- 文化芸術を意識した、もしくは文化芸術を題材とした事業展開を新たに模索してスタートアップしたい人々を支援していくために必要な勉強会の開催を推進し、非営利団体も含めた各事業団体の活動範囲の拡大を支援します。
- 文化芸術活動に積極的に関わる団体・事業所等に対する優遇措置等のあり方について検討します。

蓬萊橋観月会

=

文化芸術

×

観光

＜施 策＞ ③文化芸術活動団体とイベントをつなげ、交流を促進させる仕組みづくり

＜取組主体＞ 島田市文化協会

＜事業の概要＞

名月に映える蓬萊橋を背に、踊りや民謡・邦楽の演奏披露。俳句・川柳・短歌等を詠みます。身近な稽古や習い事等の活動発表の場であるとともに、文化活動団体とイベントとの連携によって、新たな交流を生み出しています。

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	蓬萊橋観月会の観光客へのPR 周辺観光資源と観月会を組み合わせたイベントの企画	観光客の誘致 活動団体と観光客との交流促進 郷土への愛着の形成

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

蓬萊橋を会場とすることで、身近な文化芸術活動を広く市民にアピールする機会となり、活動への参加促進が期待できます。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

蓬萊橋を活用したイベントや行事を継続することにより、橋の維持管理を促進し、地域を特徴づけるかけがえのない資源を大切にするにつながります。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

大井川の文化を象徴する蓬萊橋を会場として積極的に活用することで、身近な文化芸術活動に新たな価値を付加し、新たな文化を創出していくことが期待されます。



資料：「第14回蓬萊橋観月会」チラシ

「しまだ大井川マラソン in リバティ」 = 文化芸術 × 観光 おもてなし会場 “しま旨っ！”

◆継続事業

＜施策＞ ③文化芸術活動団体とイベントをつなげ、交流を促進させる仕組みづくり

＜取組主体＞ しまだ大井川マラソン in リバティ実行委員会事務局（観光課）

＜事業の概要＞

おもてなし会場“しま旨っ！”は、ランナーだけでなく応援の人をも「おもてなし」するためのイベント。メイン会場では、特産品ブースでお茶や和菓子等地域の食文化を発信するとともに、市内外の人をおもてなしします。33km 付近に設置される給水・給食ステーションでは、空腹を満たす 30 種類にも及ぶメニューでランナーをサポートします。



資料：しまだ大井川マラソン in リバティホームページ

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	伝統芸能等のステージイベントの実施 特産品ブースで地域固有の食文化を観光資源として発信 地元企業による“しま旨っ！”への出店	観光客の誘客 市内外の人との交流の促進 地域固有の食文化の発信 地域経済の活性化 地域資源の再認識

＜その他関連する施策の柱＞

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

好記録の出やすい平坦さと大井川の景観を眺めながら走る事のできるコースが多く、ランナーの参加を促します。

7 郷土への愛着や誇りの形成

大井川の雄大な景色を眺める市民ランナーは、改めてその価値を認識し、郷土への愛着を育みます。また、固有の地域資源に対する市外からの参加者の評価は、その地域資源の価値を再認識させてくれます。



現状と課題

本市は、恵まれた交通条件や自然環境が存在していますが、若年層人口が流出傾向にあり、空き家（古民家）、空き店舗等、資源の有効活用が課題となっています。また、富士山静岡空港の立地がまちなかのにぎわいや観光、商業等に活かされておらず、インバウンド等を意識した観光の促進も課題です。

第2次島田市総合計画における、歴史・文化・地域の政策分野では、歴史・文化と情報発信・シティプロモーション、移住・国際交流・多世代交流といった分野との連携が示されています。これら分野における若年層の人口流出対策や移住・定住施策、まちづくり等の課題に対して、文化芸術を切り口としたアプローチが期待されています。

施策の方向性

文化芸術のもつ人と人をつなげて市民の心を豊かにする力と、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他の分野を連携させ、文化芸術そのものの価値を高めるとともに、地域課題の解決に取り組みます。

また、社会の急速な変化に対応した市民意識の変化や若者の文化芸術の現状を把握し、本市の文化芸術の望ましい将来像を模索していきます。

施策

① 人と人をつなげる文化芸術活動の促進

文化芸術活動のもつ人と人、人と地域をつなぐ力を活かし、誰もが社会とつながり、社会参加できる文化芸術活動を推進します。

例えば、障害のある人や高齢者、あるいは社会的に孤立しがちな人々が、文化芸術に触れたり、自ら創造したりする機会を創出します。

② 景観や歴史的資源、人を活かした文化芸術活動のあり方の研究支援

自然豊かな景観や歴史的価値のある資源、高い受容性を兼ね備えた人々等を活かし、時代とともに変化する地域のニーズに応じた文化芸術活動のあり方の研究支援を行います。

例えば、県が行う大学コンソーシアムの事業等を活用して、本市の実情に合わせた地域資源の活用方法の研究を行う等が考えられます。

③ 他分野との連携による物事の新しい捉え方の創出

一見、文化芸術と関わりが薄いと考えられる地域課題の中で、防災、中心市街

地の再生といった文化芸術に結びつく可能性をもった要素が存在しています。

文化芸術と観光やまちづくり等を連携させ、新たな視点をもって社会環境の変化がもたらす課題等を捉えることで、今までにないアプローチ方法で課題解決に取り組めます。

新たな取組

これまで保存管理の側面が重視されてきた歴史的価値のある文化資源に対し、積極的な活用を展開するため、商業分野や観光分野との連携を深め、まちのにぎわい創出を目指します。

○島田宿大井川川越遺跡等、地域固有の歴史文化を顕在化させる価値をもつ歴史的な文化資源について、訪れる人誰もが身近に親しみ楽しむことのできる環境づくりを目指し、にぎわいを創出することで、楽しみと喜びに出会う場の形成を推進します。

○観光、まちづくり、産業その他の分野と連携するとともに、IターンやJターン等による人材確保も視野に入れながら、空き家や空き店舗等まちなかで埋もれた資源の有効活用を推進するための手法について積極的に検討します。

○地域住民との連携を深め、歴史的価値のある文化資源を、文化芸術活動に関心のある人々の「集いの場」や「溜まり場」といったようなコミュニティ・スペースとして活用することを推進します。

「大代ジャンボ干支」

= **文化芸術** × **観光**

× **まちづくり**

＜施 策＞ ③他分野との連携による物事の
新しい捉え方の創出

＜取組主体＞ おうじだかい 王子田会（大代地区コミュニティ）

＜事業の概要＞

地域活性化活動のひとつとして、毎年稲わら等を
活用した巨大な干支を製作しています。

地域の活性化に話題づくりは欠かせないものです。
地域固有の資源と高い創造性から生み出された新た
な文化芸術が、大きな話題となり、市内外からこの
ジャンボ干支を目的に訪問客が訪れるようになりま
した。ジャンボ干支の作品を切り口とした地域課題
への取組の素晴らしい事例のひとつです。



フォトスポットとしてにぎわう
大代ジャンボ干支

＜連携分野＞

分野	連携内容	効果
観光	ジャンボ干支（文化芸術）をフォトスポ ットとすることで観光資源として発信	大代地区への誘客
まちづくり	ジャンボ干支（文化芸術）を住民が主体と なり作成	地域コミュニティの強化
	ジャンボ干支（文化芸術）展示会場で地場 産品等の販売	地域資源を販売する場の提供 地域資源の発信

＜その他関連する施策の柱＞

1 誰もが参加できる環境づくり

作品は屋外に展示されており、入場時間等の制限が無く、家族で会話を楽しみながら写真
を撮影することができます。文化芸術を気軽に楽しむ環境があります。

3 異文化・多世代交流の促進

文化芸術を通じて、多様な人々が交流をもつ場を創出しています。

4 人をつなぐための情報の整理と発信の強化

訪れた人々が撮影した写真を年賀状に使用したり、SNSで発信したりします。また、季
節の風物詩として、新聞等に取りあげられることも多く、多様なメディアによる情報発信が
行われています。

6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出

稲わらという地域固有の資源を活用し、ほかにはない文化芸術作品を創造しています。

7 郷土への愛着や誇りの形成

生活文化の中で地域固有の資源に価値を見出し、地域外から評価を受けることで、地域の
誇りの形成につながることを期待されます。

「歴史資源利活用事業」 = 文化芸術 × 観光

◆新規事業

<施 策> ③他分野との連携による物事の新しい捉え方の創出

<担 当 課> 文化資源活用課

<事業の概要>

川越遺跡周辺や諏訪原城跡等では、継続的な文化財の保存を図るだけでなく、新たなにぎわいの創出により、歴史資源の重要性を高めるとともに、観光客の誘客につながる事業を検討・企画していきます。

<連携分野>

分野	連携内容	効果
観光	空き家のリノベーション（改修）による商業施設や宿泊施設の整備 史跡の整備 駐車場や公園の整備	観光客の誘客 知名度の向上

<その他関連する施策の柱>

1 誰もが参加できる環境づくり

歴史的価値のある川越遺跡に、誰でも身近に楽しめる環境が整備されます。

3 異文化・多世代交流の促進

楽しみながら地域を知ることができたり、新しいものと出会える喜びを感じたりことができ、多くの人と文化が行き交う場を創出します。

5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承

地域を特徴づけるかけがえのない資源を大切に守り、次世代につなげます。

7 郷土への愛着や誇りの形成

豊かな自然と誇るべき地域資源に価値を見出し、郷土への文化芸術への積極的な関わりを生み出します。



川越し街道を活用したイベント「和菓子バル」の様子

第5章 計画の推進

第1節 期待される役割

本計画は文化芸術の力により、市民、訪れる人、誰もが心豊かな生活を楽しむことができるまちの実現に向けた取組を展開していきます。

市民や文化芸術関係団体、企業、市等、多様な主体は、互いに平等な立場で、文化芸術に対する多様かつ柔軟な関わり方を目指します。

○市民

文化芸術活動の主役は市民であり、一人ひとりが文化芸術活動の担い手となります。何事もおおらかに受け入れる寛容さを活かし、多様な交流を図りながら、文化芸術活動に自律的に取り組むことが期待されます。

○文化芸術関係団体

文化芸術活動を通じて、市民の文化芸術への関心を高め、活動を促すとともに、人材の育成が期待されます。また、他団体等との交流により、多彩な文化芸術を創造することが期待されます。

○企業

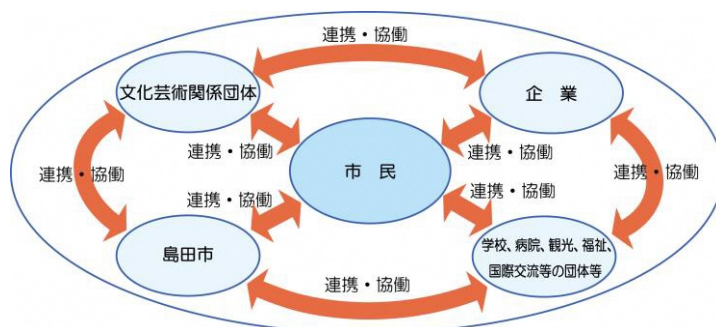
茶業、木工業など企業本来の活動に含まれる文化芸術の要素を認識し、活用していくとともに、市民の文化芸術活動への支援や、観光やまちづくりとの連携も期待されます。

○学校、病院、観光、福祉、国際交流等の団体等

教育、医療、観光、福祉、国際交流といった専門性の高い公共的な役割をもつ団体の、より積極的な文化芸術との連携が期待されます。

○島田市

市民が主役であるという立場に立ち、文化芸術に向かう姿勢を支援し、活動しやすい環境を整えるとともに、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。また、多様な主体と協働し、文化芸術を通じて交流を生み出し、誰もが心豊かになれるまちを目指します。

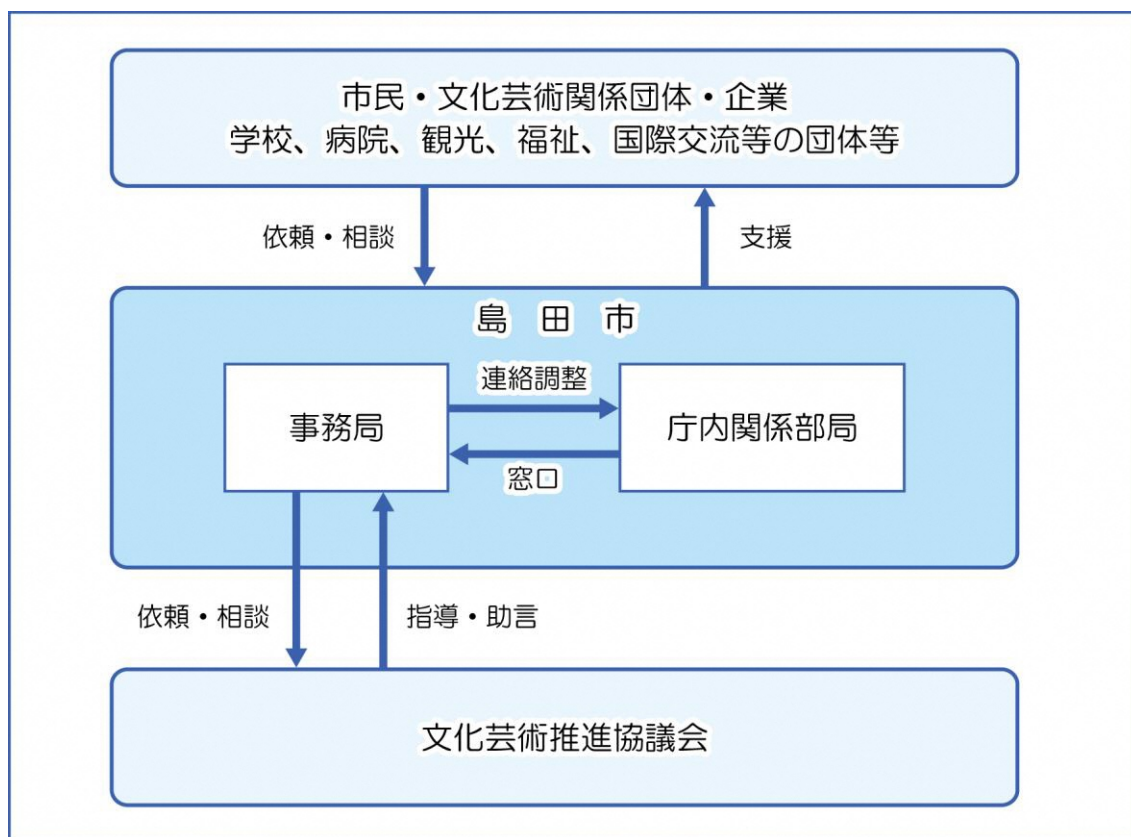


様々な取組主体

第2節 推進体制、事業の評価と計画の見直し

○庁内体制の整備

本計画にあげた文化芸術施策を総合的に推進するため、庁内の事務局が市民や関係団体、事業所等との窓口となるとともに、庁内関係部局との連携や調整を行います。



推進体制のイメージ

○事業の評価方法と計画の見直し方法

市が主体となって取り組む事業については、庁内関係部局が実施していくこれらの事業について、担当課の進捗状況の管理指標を基に、事務局がこれに文化芸術の視点を付加して、計画の目標年度（令和8年度）までに事業の進捗状況を確認し、文化芸術の視点における課題を関係者と共有します。

これらの取組については、巻末に「文化芸術の推進に係る事業」として一覧を掲載しています。この一覧を基に進捗状況等の確認を行い、課題を見出し、見直し作業につなげていきます。

また、地域が主体となって取り組む事業については、団体等にヒアリングを行う等して現状と課題を把握します。

これら課題を踏まえて計画の見直しを行います。

